



図書館サポーターズだより 明日に吹く風



あけましておめでとうございます。まだまだ寒い日が続きますが、今年も素敵な読書タイムをぜひ、茨城図書館でお過ごしください(・。・) 今回も、図書館サポーターズおススメの本を紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～



『フランス人は10着しか服を持たない／パリで学んだ”暮らしの質”を高める秘訣』

ジェニファー・L・スコット 著；神崎 朗子 訳 (590.4 || Sc9)

この本は、著者がパリでのホームステイを通じて出会った、シンプルで洗練された暮らしの秘密を紹介するエッセイです。著者が暮らした“マダム・シック”一家での生活は、持ち物こそ少ないので、毎日の食事や身だしなみ、住まいの整え方に一貫して「質を大切にする」美意識が根付いています。クローゼットには厳選した10着ほどの上質な服だけを揃え、日々の生活でも量より質を重視する姿勢が印象的に描かれています。無駄をなくし、自分の美意識に沿った暮らしを選ぶことで、心地よい余裕や満足感が生まれるという気づきを、著者はユーモアを交えて伝えています。モノがあふれる現代だからこそ、必要なものを選び抜き、自分らしい豊かさを育てたい人に、多くのヒントを与えてくれる一冊となっています。

(Y. M)

『小さな星の本』

渡部 潤一 監修 (440.4 || C43)



夜空を見上げた時、もっと星のことが知りたくなったら、この一冊を手に取ってみませんか？

この本は、国立天文台上席教授の渡部潤一先生が監修した、星の初心者さんに最適な本です。「専門的な本はちょっと苦手」という方でも、天文学の基本的な知識をとてもわかりやすく学べます。しかし、本書の魅力はそれだけではありません。宮沢賢治やサン=テグジュペリなどの文学作品、ゴッホやミレーなどのアート作品も収録し、星空にまつわる、文学や美しいアートの世界に触れることもできます。さらに、美しい星空の写真とともに世界各地の絶景スポットを紹介。まるで星をめぐる旅に出ているような感動も味わえます。この本を読めば、いつもより夜空を楽しめること間違いなしです！

(M. K)

『舟を編む』

三浦 しをん 著 (913.6 || Mi67)



「言葉は、言葉を生み出す心は、権威や権力とはまったく無縁な、自由なものなのです。」

この物語は、主人公の馬締光也が玄武書房の辞書編集部に引き抜かれ、個性豊かな編集者達と共に新しい中型国語辞典「大渡海」の編纂(へんさん)に取り組む姿が描かれています。辞書とは、言葉という大海原を航海するための船。辞書編集部は、言葉の海を照らす灯台の明かり。辞書編集者は、食べて、泣いて、笑って、恋をする、普通の人間。ただ人より少し言葉の海で遊ぶのがすきなだけ。

身の回りの言葉一つ一つに目を向けて、意味や使い方を考えたくなる1冊です。久しぶりに紙の辞書を開いてみたくなりました。映画やドラマにもなっているため、その違いも面白さの一つだと思います。

(S. H)

